

## 第2次男女平等・多様性社会推進行動計画（素案）に関するパブリック・コメント実施結果

### 1. 実施期間

令和3年12月3日から令和3年12月17日まで

### 2. 提出方法及び提出者数

提出方法	人数
郵送	1
持参	0
ファックス	1
電子メール	4
L I N E	0
計	6

### 3. 意見総数

21件

内訳：用語の使い方や意味について 8件 施策について 10件 指標について 1件 その他 2件

※複数のご意見をいただいたものがあるため、意見総数と提出者数の合計は一致しません。

個人や団体が特定できる内容は除くなどして意見の要旨としています。また、趣旨が近い意見は1つの要旨としてまとめている場合があります。

#### 4. SOGIE及びジェンダー平等に関する渋谷区の基本的な考え方

次期行動計画から新しく使用する「SOGIE」や「ジェンダー平等」という言葉を使用した背景について、渋谷区の考え方をここに示します。

渋谷区は2015年に「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」を施行し、現行計画に基づき、従来の男女の人権の尊重の取組に加え、性的マイノリティの人権尊重に取り組んできました。しかしながら、条例の施行から約7年が経過した現在も、社会では性別による役割分業をはじめ、男性と女性の格差は依然として問題となっており、とりわけ、女性であることに起因する複合的困難は大きな問題として存在していると認識しています。一方で、性的マイノリティの人権尊重については、人々の認知や支援は進んだものの、未だ差別や偏見に起因する困難が存在していることも認識しています。

これらの認識は、現行計画の進捗状況調査や意識調査、アイリスに寄せられた声などから得たものであり、その内容を精査したところ、一見すると別の問題のように見える「男女格差」や「性的マイノリティが直面する困難」は、共に「性のありよう」が尊重されていないことに起因しているのではないかということに気づきを得ました。その気づきから、男女平等と多様性社会の推進を分け隔てなく取り組む必要性を痛感しました。

こうした問題を根本から解決するために、渋谷区は、すべての人が有する性のありようを尊重し、その視点をあらゆる施策に意識的に取り入れていくことが重要であると考えます。そこで、次期行動計画において、男女平等と多様性社会推進の取組を分け隔てることなく、すべての人が有する性のありようが相互尊重され、社会的に排除されることがない状態を「ジェンダー平等／ジェンダー平等な社会」と位置付けました。そのため、従来のような性別への言及の仕方によって誰かを取り残さないように、すべての人が有する性のありようを表す「SOGIE\*」という言葉を選択しました。「SOGIE」とは身体的・社会的性別の「男性」や「女性」という視点だけではなく、性的指向や性自認、ジェンダー表現の視点も多角的に取り入れられている言葉であることから、誰一人取り残さない地域社会をめざす渋谷区において重要な概念であると捉えています。

渋谷区では、引続き社会的・文化的に形成された性別に起因する格差や性的マイノリティの人々の困難解決に取り組みつつ、SOGIEの視点を踏まえることで、誰一人取り残さない、ジェンダー平等な地域社会の実現に取り組んでまいります。新しい言葉について最初は戸惑う方もいらっしゃるかと存じますが、今後みなさまに理解していただくための努力を惜しまず、丁寧に説明を行ってまいります。

\*SOGIE：性的指向（Sexual Orientation）、性自認（Gender Identity）、ジェンダー表現（Gender Expression）の頭文字をとった、性のありようを表す言葉。

## 5. 提出された意見及びそれに対する渋谷区の考え方

番号	意見要旨	渋谷区の考え方
計画の策定にあたって		
1	<p>SOGIEという言葉がたくさん出てきますが、最初の説明では良くわかりません。「性別二元論的な壁を取り払い」とは男女差別の壁という意味ですか。</p>	<p>「SOGIE」とは身体的・社会的性別の「男性」や「女性」という視点だけではなく、性的指向や性自認、ジェンダー表現の視点も多角的に取り入れられている言葉です。そのため、SOGIEは従来のような性別への言及の仕方によって誰かを取り残さず、男女平等と多様性社会の推進を分け隔てなく取り組むうえでの重要な概念であると捉えています。</p>
2	<p>「広報物や窓口の多言語対応の推進」として「(広報物) 日本語を母語としない渋谷民にジェンダー平等やSOGIEに関する情報提供が行えるよう、広報物の多言語対応を推進する。」「(窓口) 日本語を母語としない渋谷民がSOGIEに関わらず、相談ができ、また、支援が受けられるようになるため、窓口業務の多言語対応を推進する。」と記載されている。しかし、「SOGIE」「ジェンダー平等」「アンコンシャス・バイアス」等々、このような語彙は日本語としてお使いなのだと思います。これらの単語は「業界用語」と思われます。多言語対応はお願いしたいが、母国語でまず受け入れられるような計画書を発行していただきたい。</p>	<p>ご指摘いただいた各単語は関係機関や有識者からもご意見をいただき、議論・熟慮の上、言葉を選択しました。例として「SOGIE」は主に国際連合や国際ジェンダー法の分野で使われる言葉であり、日本でも使われるようになってきています。新しい言葉について最初は戸惑う方もいるかと存じますが、今後みなさまに理解していただくための努力を惜しまず、丁寧に説明を行ってまいります。</p>

番号	意見要旨	渋谷区の考え方
3	<p>ジェンダー平等という言い方がやっと定着したところに新しい言い方に変えるというのは無理がありませんか。区民に理解してほしいならもっとわかりやすい言葉でまとめるべきだと思います。行動計画は一般区民が理解するものですので、なるべく新語ではなく一般的な言葉が良いと思います。</p>	<p>渋谷区は、すべての人が有する性のありように関わらず相互尊重され、社会的に排除されない状態をジェンダー平等と位置付けています。</p> <p>また、「SOGIE」とは身体的・社会的性別の「男性」や「女性」という視点だけではなく、性的指向や性自認、ジェンダー表現の視点も多角的に取り入れられている言葉であり、重要な概念であると捉えています。</p> <p>これらのことから、渋谷区は、「SOGIE」という言葉を「ジェンダー平等」という言葉の言い換えとは捉えていません。従来のような性別への言及の仕方によって誰かを取り残さないように、すべての人が有する性のありようを表す「SOGIE」という言葉を選択しました。</p>
4	<p>今回の行動計画には「SOGIE」という言葉が多くあります。今までの取組が進まない要因の一つに「表記を理解するのが難しい」というのもあります。今回の行動計画では、もう少し理解しやすい表現にしたいと思っています。</p>	<p>「SOGIE」とは身体的・社会的性別の「男性」や「女性」という視点だけではなく、性的指向や性自認、ジェンダー表現の視点も多角的に取り入れられている言葉であることから、誰一人取り残さない地域社会をめざす渋谷区において重要な概念であると捉えています。</p> <p>そのため、従来のような性別への言及の仕方によって誰かを取り残さないように、すべての人が有する性のありようを表す「SOGIE」という言葉を選択しました。</p> <p>新しい言葉について最初は戸惑う方もいるかと存じますが、今後みなさまに理解していただくための努力を惜しまず、丁寧に説明を行ってまいります。</p>

番号	意見要旨	渋谷区の考え方
5	<p>「男女平等という言葉は時代遅れであり・・・」という記載がありますが、まだまだ男女平等は実現されていません。新型コロナウイルス感染症の影響下で、女性の貧困、性暴力の深刻化、自殺の増加に至るまで、あらゆる問題が噴出しました。ひとり親家庭の問題についても、母子家庭と父子家庭とでは抱える問題が異なると思います。特にコロナ禍のこの2年間の母子家庭の困窮状況は、長年の男女性別役割分業の結果ではないでしょうか。</p>	<p>区は、性別による役割分業をはじめ、男性と女性の格差は依然として存在しており、大きな問題であると認識しています。一方で、性的マイノリティの人権尊重については、人々の認知や支援は進んだものの、未だ差別や偏見に起因する困難が存在していることも認識しています。</p>
6	<p>「SOGIE」の中には「男女平等の根源」という考え方が入っていません。国籍・年齢・職業・宗教・性自認等々、あらゆる差別の中に、「女性差別」が「二重差別」として入っています。例えば、上記列挙した内の「性自認」の中にも男女役割分業意識があり、DVなどはどこにも表れていると思います。</p>	<p>こうした問題を根本から解決するために、渋谷区は、すべての人が有する性のありようを尊重し、その視点をあらゆる施策に意識的に取り入れていくことが重要であると考えます。そのため、従来のような性別への言及の仕方によって誰かを取り残さないように、すべての人が有する性のありようを表す「SOGIE」という言葉を選択しました。「SOGIE」とは身体的・社会的性別の「男性」や「女性」という視点だけではなく、性的指向や性自認、ジェンダー表現の視点も多角的に取り入れられている言葉であり、重要な概念であると捉えています。</p> <p>渋谷区では、引続き社会的・文化的に形成された性別に起因する格差や性的マイノリティの人々の困難解決に取り組みつつ、SOGIEの視点を踏まえることで、誰一人取り残さない、ジェンダー平等な地域社会の実現に取り組んでまいります。</p> <p>ご指摘いただいた「男女平等という言葉は時代遅れであり・・・」の部分につきましては、上記の趣旨を踏まえた表現に改めます。</p>

番号	意見要旨	区の方考え方
体系		
7	<p>「SOGIE」の言葉の説明にある「性別二元論的な壁」が男女のことであるならば、ジェンダー平等という言葉は使わないということですか。LGBTQも大事ですが、今日の前にある男女の不平等ということが逆にあいまいになってきはしませんか。体系の文言は「SOGIE」のかわりに「ジェンダー平等」と換えても十分意味が通じると思いました。</p>	<p>区は、社会では性別による役割分業をはじめ、男性と女性の格差は依然として問題となっており、とりわけ、女性であることに起因する複合的困難は大きな問題として存在していると認識しています。一方で、性的マイノリティの人権尊重については、人々の認知や支援は進んだものの、未だ差別や偏見に起因する困難が存在していることも認識しています。</p> <p>こうした問題を根本から解決するために、渋谷区は、すべての人が有する性のありようを尊重し、その視点をあらゆる施策に意識的に取り入れていくことが重要であると考えます。「SOGIE」とは身体的・社会的性別の「男性」や「女性」という視点だけではなく、性的指向や性自認、ジェンダー表現の視点も多角的に取り入れられている言葉です。そのため、従来のような性別への言及の仕方によって誰かを取り残さないように、すべての人が有する性のありようを表すSOGIEの言葉を計画の多くの箇所で用いています。</p>
8	<p>ジェンダー平等をしっかりと掲げるために「SOGIE」という言葉を使うことにしたと理解したのですが、正直施策の上でジェンダー平等との違いがわかりませんでした。</p> <p>施策の方向性というところに「SOGIE」という言葉がたくさん出てきますが、とてもわかりにくいです。例えば、施策の方向性8の事業38「多様な介護ニーズの検討・実践」については、何を整備するのか具体的にわからない。これは指針だから具体的でなくともいいということでしょうか。</p>	<p>「SOGIE」の言葉についてご理解いただきありがとうございます。渋谷区は、すべての人が有する性のありように関わらず相互尊重され、社会的に排除されることがない状態を「ジェンダー平等」として捉えています。渋谷区は、社会的・文化的に形成された性別に起因する格差や性的マイノリティの人々の困難解決に取り組みつつ、SOGIEの視点を踏まえることで、誰一人取り残さない、ジェンダー平等な地域社会の実現に取り組んでまいります。</p> <p>なお、施策の検討に当たって、5年の計画期間の中で新規事業が出てきた場合に計画に位置付けやすくする点や、解決すべき課題の特定とそのための取組を所管において検討できる余地を残すことで、取組内容を明確に把握する点などを考慮しています。事業38「多様な介護ニーズの検討・実践」も同様の考え方から検討したものです。</p>

番号	意見要旨	区の方考え方
施策の柱Ⅰ		
9	<p>学校教育について「知識だけでなく『体現』が求められる」とあります。人権教育だけでは「いじめ」も「差別」もなかなかなくなります。この場合、幼少期からの包括的な性教育（ユネスコが出している『国際セクシャリティ教育ガイダンス』）によって、男・女・LGBTの性差がどう生まれ、自分は何者かを科学的に知ることによって、「相互尊重」が生まれると考えます。先日報道されたNHKの「ジェンダーサイエンス」のような番組でよくわかると思います。</p> <p>施策の方向性1の事業3「SOGIEに配慮した学校教育の推進」に「心身の発達段階に応じて、各教科等の学習において」とあるところで、性教育の充実を取り上げていただきたいと思います。学習指導要領の「はだめ規定」のため義務教育の教科書では「性交」を取り上げられていません。国の法律にない「パートナーシップ証明」発行の英断を下した渋谷区でこそ、性教育の実施を取り上げていただきたいと切に願います。</p>	<p>事業3「SOGIEに配慮した学校教育の推進」に位置付けているように、体育科の保健領域や、理科の生命誕生の学習など、学校教育全体を通じて、性に関する基礎知識を学び、適切に意思決定をして、行動選択ができるよう、心身の発達段階に応じた教育内容の充実に向けて取組を行ってまいります。</p> <p>今後の取組については、いただいたご意見を参考に区の関係部署で議論を重ねてまいります。</p>
10	<p>幼少期からの性教育を渋谷だからこそ、行ってほしい。国際的に認められている「国際セクシャリティ教育ガイダンス」（人権とジェンダー平等の中での包括的セクシュアリティ教育）を取り入れてほしい。「誰もが、自分の体に誰が、どこに、どのようにふれることができるのか」を「自分で決める権利を持っている」ことを、幼少期から教えてほしい。近親者による性被害を防ぐためにも必要です。</p> <p>また、施策の柱Ⅱにはリプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）に関する啓発が載っていますが、学校教育の中でも必要なのではないのでしょうか。</p>	

番号	意見要旨	区の方考え方
1 1	<p>幼児に語る生と性、子どもを性被害から守るための絵本などを子どもだけでなく、保護者もともに読めるように図書館等に配架してほしい。同様に、小中学生の生と性の書籍、SRHRに関する書籍も同様に配架してほしい。</p>	<p>事業6「SOGIEに関する情報提供の場の充実」において位置付けているように、区は生徒が自ら性のありように関わる情報が入手できるよう情報提供の充実や、相談員の配置など性の商品化を許さない環境づくりなどに取り組んでまいります。</p> <p>ご意見いただきました書籍の配架について、アイリスにおいて図書の紹介等を行っていますが、今後区の関係部署へのさらなる働きかけに努めてまいります。</p>
<b>施策の柱Ⅱ</b>		
1 2	<p>事業14「ジェンダー平等に取り組む企業の表彰」、事業19「ジェンダーやSOGIEに関する講座の開催」、事業20「SOGIEを問わずつながれる相談事業の充実」など優れている施策と考えます。特に事業17「性の商品化防止の啓発」は、若者の集まる渋谷区という地域性からもぜひ力を入れていただきたい施策です。</p>	<p>各事業の趣旨をご理解いただきありがとうございます。渋谷区は区民の方に限らず、外から足を運んでいただく方も非常に多い街です。上記の方々も含めて、特に若い世代における性被害については区として大きな課題と捉えています。警察やNPOなど、関係部署と適切に連携の上、より一層力を入れてまいります。</p>
<b>施策の柱Ⅲ</b>		
1 3	<p>政治的分野における女性の参画が非常に大切と考えます。ジェンダーギャップ指数120位という汚名を取り払ううえでも先進的な渋谷区で頑張してほしいと思います。審議会委員の「0」は従来から大きく状況が変わっていないように思います。とにかく「0」をなくす目標の実現を期待しています。また、全国的に問題になっている「防災会議」については50%を目指してほしいです。</p>	<p>ご意見の通り、ジェンダーギャップ指数に大きく関わる政治分野への女性の参画は喫緊の課題と考えております。「防災会議」については数値の向上に向けて、区の関係部署で取り組んでまいります。</p>
1 4	<p>「区民の意識・実態調査」は、「男女差別」の実態を知るためにも「ジェンダー統計」「女性白書」が必要と考えます。</p>	<p>本行動計画の策定に当たり、「男女平等および多様性社会推進に関する意識調査」を実施しました。当該調査においては、性のありようやDV、ワーク・ライフ・バランスについてのジェンダー別のニーズや置かれている状況を分析いたしました。今後も調査結果や世の中の動向等を踏まえ、施策を推進してまいります。</p>

番号	意見要旨	区の考え方
<b>施策の柱Ⅳ</b>		
15	子育て支援の事業29「ひとり親家庭の自立支援の推進」、事業30「子育て家庭への総合的な支援の充実」は核家族が一般的になり、シングルマザーが増えてきている現在、大切な施策だと思います。また介護の充実の事業37「介護サービス等の基盤整備」も重要な施策です。	各事業の趣旨をご理解いただきありがとうございます。ご意見のとおり、区民のみなさまのご家庭の状況に則して、自立支援、子育て支援、高齢者支援の充実に取り組んでまいります。
<b>施策の柱Ⅴ</b>		
16	性被害防止の取組では、事業65「子どもに対する性犯罪・性暴力などの根絶に向けた対策の推進」の内容として、「学校における教育内容の充実」とありますが、包括的性教育の実施こそ大切と考えます。 また、諸外国でも進んでいる加害者への更生への取組も考えてほしいです。	区は、体育科の保健領域や、理科の生命誕生の学習など、学校教育全体を通じて、性に関する基礎知識を学び、適切に意思決定をして、行動選択ができるよう、心身の発達段階に応じた教育内容の充実に取り組んでいます。また、教育分野以外における性被害防止についても取り組んでまいります。
<b>施策の柱Ⅵ</b>		
17	拠点施設としてアイリスを位置付けていることが大切です。	拠点施設の重要性をご理解いただきありがとうございます。区はアイリスを拠点として、ジェンダー平等の実現に向けた知識や意識の啓発に努めてまいりました。 現在、アイリスは性のありように起因する複合的困難の解決に取り組んでいます。今後は、これまで以上に積極的に外へ踏み出し、アウトリーチの推進、多様な主体同士の交流・ネットワークづくりの推進、課題解決に取り組むNPO等民間団体の育成に取り組んでまいります。
<b>施策の柱Ⅶ</b>		
18	渋谷区パートナーシップ証明制度について、パートナーシップ証明書の活用機会の拡大をのぞみます。また、証明書が「パートナーとの暮らしにおける万が一の事態に備えた有効性」をより担保できるような具体的な施策をのぞみます。	パートナーシップ証明書によって区民が得られる行政サービスは、現在、区民住宅、区営住宅の入居申請のみとなっております。ご意見の通り、活用機会の拡大は重要な課題と認識しております。窓口での手続きにおいてパートナーシップ証明書が有効に利用できるなどといった、行政サービスの拡充のほか、企業や事業者との連携により有効性を高め、活用機会の裾野を広げられるよう検討を進めてまいります。
<b>第4章推進に向けて</b>		

番号	意見要旨	区の考え方
19	<p>指標として目標値を定めていますが「Ⅱ. SOGIEにかかわらず安心して暮らせる街づくりのための啓発」、「Ⅴ. 地域のセーフティネット構築」、「Ⅵ. 多様な主体による連携促進」について、目標値が100%というのは架空の目標となってしまうかねない。よく検討のうえ、達成可能な目標を掲げてほしい。</p> <p>なお、「区職員のSOGIE指針の認知度の100%」はぜひ実現してほしい。</p>	<p>評価指標は目指すべき目標であると同時に、施策を検討するための参考値となります。区は指標を目的ではなく、ジェンダー平等の実現のための手段としても捉えており、実現に向けた決意の表明として100%の数値を設定しています。</p>
その他		
20	<p>合唱団の活動において、アルトパートに男性が混じっている光景を見たのはもう30年前のことです。芸術の世界では古来より男女の区別なく、美しいものを受け止め、感動することが自然なことだと思います。多様性を認め合い、できるところからSDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいきたいと思います。</p>	<p>計画の趣旨を理解いただきありがとうございます。SOGIEにかかわらず、個人があらゆる分野に参画でき、安心して過ごせる渋谷区の実現に向けて、今後も区民のみなさまとともにジェンダー平等な地域づくりに取り組んでまいります。</p>
21	<p>区民の男女共同参画意識調査、活動拠点のアイリスの認知度について等、アンケートをお願いしてきました。また、パブリック・コメントについても同様に申し入れてきましたが、実現しないまま行動計画ができていました。この度の計画改定においてパブリック・コメントの機会が設けられたことを大きく評価します。</p> <p>第3次、第4次の「男女平等・多様性社会推進行動計画」についても、多くの渋谷民の意見を聞き、ご検討をお願いします。</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。今後もアンケート調査やパブリック・コメントの機会、またアイリスの運営を通じて、区民のみなさまの意見を取り入れながらジェンダー平等な地域社会づくりに取り組んでまいります。</p>